

平成 26 年度第 1 回「三番瀬専門家会議」結果概要

1 概 要

- ・日 時 平成 26 年 9 月 18 日（木）午後 6 時から午後 8 時まで
- ・場 所 千葉県国際総合水泳場 会議室（習志野市）
- ・出席委員 4 名（市川委員、岡安委員、箕輪委員、村上委員）
- ・議事「三番瀬自然環境調査」、「市川市塩浜護岸改修工事」、「干潟的環境形成検討事業」について出席委員から助言をいただいた。その他、「市川漁港整備事業計画」について報告した。

2 主な意見等

① 三番瀬自然環境調査

- ・調査地点を地図上に記載する等、調査方法を記載すること。項目の見出しと記載内容を整合させ、事実と考察は分けて記載すること。

② 市川市塩浜護岸改修工事について

< 1 丁目のモニタリング調査結果 >

- ・生態系の回復という観点で見ると、種類数と個体数は対で見なければならない。
- ・個体の大きさにより被度は変わるので、被度と個体数は分けて見るべきである。
- ・アオサの繁茂が護岸工事によるものかどうか、水質、底質、生物のデータ等を突き合わせるによって何か言えるとよい。今後のモニタリングに期待している。

< 2 丁目の整備方針決定と環境影響予測 >

- ・200m 区間について、自然学習等を目的とせず 900m 区間と同様の護岸を整備する方針ならば、同様のモニタリングを基本として考えていけばよいだろう。
- ・秋は台風、青潮の影響を受けやすいため、今年 9 月のデータだけでなく過去のデータを含めて総合的に判断すること。
- ・海生生物について、少し沖合の生物も指標にいた方がいいのではないか。（横山委員事前提出意見）

③ 干潟的環境形成検討事業

- ・この干潟的環境の形成は、第 3 次事業計画 8 頁目の「三番瀬の再生における位置づけや役割」と整合するという理解でよいか。これまでの議論を反映したものであることを確認しておきたい。

- 小規模なので、干潟的環境の形成というよりも、三番瀬の環境にふれられる場として検討することが現実的だろう。
- 整備費用が高くても、多くの人々が安らぎや海にふれあえる機会を得ることで総合的な価値は高くなる。アクセスに配慮して整備することにより、利用に見合った価値が見い出せるだろう。(古川委員事前提出意見)
- 干潟か公園か、事業主体は千葉県か市川市かが重要な条件になる。整備するのであれば、利用者がいつでも生物にふれられる場になるのが望ましい。(横山委員事前提出意見)

平成26年度第1回「三番瀬ミーティング」結果概要

1 概要

- ・日時 平成26年10月25日（土）午後2時から午後4時45分まで
- ・場所 浦安市中央公民館 4階 大集会室
- ・第一部では、東京海洋大学大学院 教授 岡安章夫氏（三番瀬専門家会議委員）に、「東京湾の沿岸災害と湾奥の津波・高潮リスク」について講演していただいた。
- ・第二部では、県から「市川塩浜2丁目護岸整備方針の決定」「干潟的環境形成検討事業」「市川漁港整備事業計画」の報告を行った後、三番瀬再生について意見交換が行われた。

2 主な意見等（第二部）

- ①市川塩浜2丁目護岸（残された200m区間）の整備方針の決定について
 - ・自然環境学習施設はぜひ作ってほしい。三番瀬の豊かな環境をアピールするためにも必要。
- ②干潟的環境（干出域等）形成について
 - ・三番瀬の浅場をつぶして人工干潟を作り、現在ある多様な底質の豊かな環境が損なわれるようなことがあってはいけない。
 - ・ラムサール条約の「湿地復元の原則」では現存する湿地の保全がうたわれている。既存の埋立地を減らし海域を増やさなければならない。
 - ・人工干潟を造成するなら、塩浜1丁目の養貝場をぜひ検証してほしい。
 - ・干潟で海にふれたい市民も多い。
 - ・砂を入れたところは青潮の時も貝が残る可能性が高く、水質浄化には二枚貝を増やすことが有効と言われている。
- ③市川漁港整備計画について
 - ・海上だけでなく水面の下の計画についても公開してほしい。
 - ・計画通り28年度に着工して市川漁港を早く整備してほしい。
- ④ラムサール条約登録について
 - ・再生計画で全く進んでいないのがラムサール条約登録だ。予算をとって促進してほしい。
 - ・ラムサール条約登録の前にまず漁場の再生を進めてほしい。
- ⑤青潮対策について
 - ・三番瀬で一番の喫緊の課題だ。干潟造成の前にまず青潮対策を行うべきだ。

⑥浦安の護岸の安全性について

- ・ 調査、計算をきちんと行い、新基準に適合していることを検証しているのか？その資料を公表してほしい。